



期間 11月1日(日)～30日(月)

香嵐溪のもみじは今から 400 年前、香積寺 11 世の三栄和尚が経を唱えながら植えたのが始まりで、長い間“香積寺のもみじ”と呼ばれていました。1930 年に大阪毎日新聞の本山彦一社長により、香積寺の「香」、巴川をわたる爽涼とした嵐気の「嵐」から“香嵐溪”と名付けられました。

巴橋は飯盛山のほぼ全景を見ることができる場所で、待月橋と並んで、大変人気のある撮影スポットです。飯盛山頂までは歩いて約20分。古い町並みや遠くの足助城まで美しい眺めが楽しめます。また、神様が座ったとされる巨石の周りに足助八幡宮で購入した絵馬が掛けられます。

巴橋から

- AED 設置場所
- Wi-Fi 設置場所
- 撮影スポット
- トイレ
- 授乳室
- 貸しロッカー
- 喫煙所

たいげつきょう 待月橋



香嵐溪のシンボリック存在の待月橋。撮影スポットとして大変人気のある場所です。また、飯盛山側の岸には『五色もみじ』と呼ばれるもみじがあり、緑、黄緑、黄、橙、赤とその名の通り、五色のグラデーションで紅葉していくのが楽しめます。

アクセス

<公共交通機関>
 ●名鉄名古屋本線 東岡崎駅下車、名鉄バス 足助行き約70分
 ●名鉄三河線 豊田市駅下車、名鉄バス 矢並線 足助行き約45分
 いずれも香嵐溪下車

<車>
 ●東海環状自動車道 豊田助八IC下車、国道153号足助方面に約15Km
 ●猿投グリーンロード 力石IC下車、国道153号足助方面に約10Km

足助観光協会の渋滞情報や迂回路案内マップを参考にしてください。



もみじのトンネル



香積寺までの参道は背の高いもみじで覆われているので、トンネルをくぐっているかのように見えます。午後の西日が当たると紅葉したもみじの葉が光で透けて見え、道いっぱいが赤く染まります。

今年はライトアップは行いません

カタクリの群生地
 カタクリの花は早春3月下旬～4月上旬が見ごろです

香嵐溪広場



川からの冷気の影響が早めに色づきます。

三州足助屋敷

昔の里山の暮らしを今に伝える体験型施設で、門をくぐるとタイムスリップしたような感覚になります。機織りや藍染めなどの手仕事の見学が出来ます。

こうじゃくじ 香積寺



曹洞宗の古刹で、1427 年飯盛城の城主足助氏の居館跡に創建されました。開基は関白二条良基と成瀬三吉丸(犬山城主、成瀬家の始祖)、開山は白峰祥瑞禅師です。山門からの紅葉が美しい。

香嵐溪の名前の由来のお寺

つり橋(香嵐橋) 付近



香嵐溪の東側にある赤いつり橋(香嵐橋)付近は、朝日がよく当たる場所。そのまぶしい光に照らされたもみじが、色鮮やかに巴川の静かな水面に映ります。ここは園地内でも比較的早めに色づき始めます。

夫恋薬師 (つまごいやくし)



落部駐車場から階段を登ると、お堂があり、恋愛成就のご利益があるといわれます。お乳の出が良くなるという大イチョウの木があります。

足助城



戦国時代に足助を領有していた鈴木氏が築いた山城です。発掘調査を元に再建されました。本丸からの眺望が素晴らしい。

